

# ふじミュ－自然系文化祭 自然史しずおか祭 横山謙二



ふじミュ－自然系文化祭『自然史しずおか祭』

10月28日から11月5日にかけて、ふじのくに地球環境史ミュージアムの秋のイベントとして、ふじミュ－自然系文化祭『自然史しずおか祭』を開催しました。『自然史しずおか祭』は、ミュージアム研究員・NPO・サポーターなどミュージアム関係者の自然・環境史に関する研究や活動についてポスター・プレゼンテーションをする場として、開催したイベントです。このイベントはミュージアム関係者のやっている研究や活動を多くの皆さんに知っていただき、自然史に関する研究活動を理解していただきたいという趣旨で提案し、見学者のためだけではなく、われわれミュージアム関係者のためのイベントとしても開催しました。

発表者の募集期間は、大変短い期間でしたので、あまり発表者が集まらないのではという懸念がありましたが、募集を始めてすぐにイベントの趣旨を理解してくれたNPOの皆さんやサポーターの皆さんからの発表申込があり、最終的にミュージアム研究員6名をはじめ、NPO関係者16名、サポーターとインタープリター関係者5名の計27名34テーマもの応募がありました（P4発表リスト参照）。発表者のほとんどは、通常、ミュージアムで仕事している顔なじみの皆さんですが、各々が発表したい研究や活動を行っていることにたいへん驚かされました。

その発表は、昆虫、植物、動物、地質・化石、物理、人類史などなど多岐にわたる分野で、小学生から専門家までの様々な世代と立場の方がたが同じ場所に集まり発表が行われました。発表者の皆さんは、それぞれ見学者にわかりやす



『自然史しずおか祭』の様子



採集した化石について説明する前 朝琉君（左）

いよう、写真を多めにするなどの工夫をこらし、それぞれのポスターは、お金をかけたパネルより素朴ですが、目を引き付けられるものがありました。

また個人や団体の活動についての発表もありました。もちろん、NPOも『静岡県に自然史博物館を！ミュージアム誕生までの20年』という題で静岡県立自然史博物館設立推進協議会の誕生からミュージアムが開館するまでの活動の歴史を発表しました。またサポーターの竹内さんや長谷川さんなど各々の自然環境に関する取り組みや普及活動などの紹介もありました。

発表期間の11月3日と5日はできるだけ発表者に会場にいてもらうようにし、見学者の質問対応や意見交換などを行う日にしました。発表者の多くの方には、自分の研究や活動を、発表できる場ができたことに大変喜んでいただきました。中でも、私の共同発表者である最年少発表者の前 朝琉君（小学生）は、このコアタイムだけでなく3～5日の3日間毎日通い、一生懸命に自分の発表の化石を誇らしげに見学者に説明する姿が見られました。

わずか1週間あまりの『自然史しずおか祭』でしたが、意見交換や、お互いの研究や活動内容について理解を深めることができ、多くの方がたに私たちの研究や活動を理解してもらったきっかけになったと思います。そして、発表者のほとんどの人たちが、自分たちの研究や活動を紹介できる場を望んでいたことも良くわかりました。自然史しずおか祭の提案者の思惑としては、今回のイベントのような場を通し、見学者の中からも自分も研究したい、活動に参加したいという人が増え、そしてミュージアムが、

こうした人たちの活動拠点になってくれることを期待しています。

来年も『自然史しずおか祭』の開催をミュージアムに要望し、毎年の恒例行事として発展させていく努力をしていきます。

まだ開催できるかどうかわかりませんが、これを読み来年は、私も発表したいと考える方もいると思います。今回の発表者の募集は、ミュージアム関係者のみでしたが、来年の開催が決まりましたら、より多くの人にも参加できるように募集を広めたいと考えています。

### ふじミュ-自然系文化祭『自然史しずおか祭, 2017』発表リスト

庵原層群岩淵層から産出したコノシロ亜科魚類化石	NPO 横山謙二・宮澤市郎
根古屋層の化石	NPO 前 朝琉・横山謙二
動物の体の上で暮らすダニ	NPO 高田 歩
フォトグラメトリーを使って3Dデータを思いのままに!	NPO 佐々木彰央
静岡県の外来哺乳類	NPO 三宅 隆
渚にひそむ魚類の種多様性	研究員 渋谷浩一
グリセリン浸透法を改良した魚類色彩保存標本作製法	サポーター 中川龍一
静岡県東部および中部でのトウキョウヒメハンミョウの記録	NPO 平井克男・小堀 健
県内に分布拡大中のヨツモンカメノコハムシ	NPO 平井克男・平井剛夫
ヒアリの侵入を防ぐために	研究員 岸本年郎
キジヨランの葉を食害するシロマダラノメイガ	NPO 平井剛夫・杉本 武
ふじのくに地球環境史ミュージアム自然観察記 ー昆虫ー	NPO 横山謙二
静岡県のテントウムシ	NPO 福井順治
静岡県のルリボシヤンマとオオルリボシヤンマ	NPO 福井順治
ラオスで採集したキチョウ属 ( <i>Eurema</i> 属) 8種の同定	NPO 諏訪哲夫
静岡市駿河区大谷周辺でのサツマシジミの記録	NPO 池谷 正
富士川河口付近のギンイチモンジセセリ	NPO 鈴木英文
オムラサキは富士山に分布拡大しているか	NPO 清 邦彦
富士山麓におけるスギタニルリシジミの分布, 2017	NPO 高橋真弓
静岡県の帰化植物の侵入と広がり	NPO 杉野孝雄
ミュージアムサポーター活動報告	
自然観察路「生物多様性のみち」の植物 ~ 2017年夏~	サポーター 若海貴宏
カムチャツカの花	NPO 阪尾朋子
汎熱帯海流散布植物オオハマボウ (アオイ科) の分子系統地理	
~大洋を越えた種子散布と種分化~	研究員 高山浩司
伊豆半島南部入間の砂山の成因に関する予察的検討	研究員 菅原大助
電気のエネルギーはどこを伝わるか?	インタープリター 出口 憲
駿河湾の深海に生きる貝の仲間	NPO 高山壽彦
年縞研究最前線	研究員 山田和芳
古人骨の安定同位体比から食性 (エネルギー源) を探る	研究員 日下宗一郎
『静岡県の県立自然史博物館を!』	
ーミュージアム誕生までの20年ー	NPO事務局
「体験学習の場」として谷津山を活用する	サポーター 竹内佐枝子
麻機へとつながる中庭~ふじミュ-中庭大作戦~	サポーター 竹内佐枝子 栗山由佳子
身近な自然を見つめて30年 富士自然観察の会	サポーター 長谷川 望
湿原の環境や絶滅に瀕した生き物を後世へ残そう	
浮島ヶ原自然公園の取り組み	サポーター 長谷川 望
身近な自然を発見して感動しよう! 富士市子どもエコクラブ	サポーター 長谷川 望